

## 第1回（仮称）青森市教育振興基本計画検討会議 会議概要

### 1 開催日時

平成27年7月4日（土） 13:00～

### 2 場所

青森市教育研修センター5階大研修室

### 3 出席者

#### （1）教育委員

佐藤委員長、佐藤委員長職務代行者、石澤委員、斎藤委員、月永教育長

#### （2）検討委員

山谷委員、前田委員、木立委員、蛭名委員、矢野委員、近藤委員、嶋中委員、  
増田委員、奥委員、大坂委員、西村委員、成田委員、熊谷委員

※欠席者：内海委員

#### （3）事務局

成田教育部長、横山理事、工藤教育次長、平田浪岡教育事務所長、八木澤総務課長、  
杉山社会教育課長、木村文化スポーツ振興課長、木浪中央市民センター館長、  
白取文化財課長、渡邊市民図書館長、高橋学務課長、工藤学校給食課長、  
石岡指導課長、山内教育課長、中央市民センター鈴木主幹、市民図書館村上主幹、  
総務課泉

#### 4 会議概要

##### (1) 学校教育

発言者	発言内容
委員	<p>国・県では、学校教育や社会教育でもグローバル人材の育成が重要課題になっている。</p> <p>現計画の中で、どのように位置づけられているか分からないが、今後、東京オリンピックが開催されることを踏まえれば、次期計画でも取り上げていかなければならない事項と考える。</p>
委員	<p>長期欠席児童への対応について、学校から頻繁に接触がある場合とない場合があるようだ。対応マニュアルがあるのか。</p>
事務局	<p>各家庭の事情等もあるが、学校からの配付物を渡すなどにより、1週間に1回は接触することとしている。</p>
委員	<p>次期計画の検討に当たり、フリースクールや小中一環校など国会等で審議されている内容について、事務局から情報提供してほしい。</p>
事務局	<p>情報収集し、委員に皆様にお届けする。</p>
委員	<p>他市では、小学校の部活動について、完全に社会体育（外部）に移行しているところがある。中学校の部活動についても、高度な技術等が必要なサッカーなどについて、社会体育（外部）に移行しているところがあるようだ。外部にお願いする場合は、外部の団体がしっかりしていないとうまくいかないのでは、このことを含め次期計画に取り上げていく必要がある。</p>
委員	<p>子どもたちは、市営バスのフリー券や親の送迎により歩かなくなっており、体力が落ちているのではないかと。子どもたちのために良かれと思って実施したことが、逆に作用しているのではないかと。</p>
事務局	<p>子どもたちの体力が落ちている理由のひとつとして、歩かなくなっていることもあるように考える。</p> <p>小学校ではこのことも考慮し、朝の運動、中休み、部活動などで体力づくりを進めている。</p> <p>また、中学校でも、先生方が子どもたちの実態を把握しながら、体力づくりの指導しているところである。</p>
委員	<p>今後行われる県の総合計画策定の審議会からの提言の中でも、グローバルに活躍できる人材の育成が盛り込まれる予定となっており、次期計画でも盛り込むべきである。</p>

委員	<p>企業においては、学卒者が即戦力になるということはほとんどない。しかし、企業では実際には即戦力となるような実践的な教育より、心の情操教育の方がはるかに必要であり、あまり実践的な教育に偏りすぎるのは危険だと感じている。</p> <p>国においては、理数科に偏った取組が進められているが、人間形成の面を忘れてはならないし、これに一番力を入れるべきと考える。</p>
委員	<p>少し前に財務省が、少子化の影響で教員の数も減らしていくという方向性を示したところである。これについては、ストップがかかったが、今こそ、十分な体制で教員が子どもたちに向き合う環境づくりが必要と考える。</p>

## (2) 社会教育・生涯学習

発言者	発言内容
なし	

## (3) 文化・芸術

発言者	発言内容
委員	<p>ACAC や県立美術館などの既存の美術館を、定期的に学校の授業などで活用してほしい。これは芸術を鑑賞するということはもちろんであるが、美術館でのマナーを学ぶなど様々な体験が可能となる。</p> <p>新しいものを作るというよりも、既存のものを活用していくことが必要と考える。</p>
委員	<p>7月に「北のまほろば歴史館」がオープンするが、そこでも様々な活動ができるように準備しているようである。市民が文化・芸術活動に取り組む環境ができてくるのではないかと考える。</p>
委員	<p>今の子どもたちは、八甲田山の遭難を知らない。青森の市民歌も歌えない。市町村合併を機につくられた歌であるため、きちんと教えないと歌えない。</p> <p>また、ねぶたを含めた伝統芸能等を伝承していくことも大切ではないか。</p>
委員	<p>青森市 PTA 連合会では、子どもたちに郷土の文化遺産を伝承するという目的の下、今年も大型ねぶたを製作し祭りに参加することとしている。今後も、関係各位の支援・協力をいただきながら、子どもたちにねぶたを伝承して参りたい。</p>

(4) スポーツ・レクリエーション

発言者	発言内容
委員	<p>教職員の負担を軽減するため、部活動については、スポーツ少年団への移行を決断しなければならない時期になっていると考える。スポーツ少年団への移行については、良い面、悪い面ともあるが、これを含めて検討が必要な時期である。</p>
委員	<p>スポーツ少年団への移行は、親の負担が増えたりして、参加したくてもできない子どもたちが出てくるのではないかと考えるが、どのような状況になっているのか。</p>
委員	<p>かつてスポーツ少年団の移行に取り組んだことがあるが、学校がやってきたことをそのまま親に任せれば、必ず反発される。これまで無償だったものが、金がかかることになり、これが一番の要因となる。また、送り迎えなど子どもの世話も増える。これら点について、これまで以上に支援していかないと、移行は無理である。学校だけが得をするような取組は、絶対に避けなければならない。行政側の余りある支援がなければ、絶対にうまくいかない。</p>
事務局	<p>小学校の部活動を受け持つ先生の現状については、かなり高齢化している。また、児童数は減少しているが、部活動の種類は昭和 50 年代と比べ変わっていない。学校によっては、地域の方が指導者になってくれているところもあるようである。</p>
委員	<p>例えば、サッカーの裾野を広げたいといっても、少子化によって子どもたちの取り合いになってしまう。スポーツをするということは、健康や心の育成につながるし、スポーツを見たり行ったりすることのほか、スポーツを行う人を支えるといったことで、スポーツ・レクリエーションの裾野を広げていけたらいいのではないかと考える。</p>
委員	<p>大事なことは、生きる力を育むということだと考える。今の時代は、その場所で足踏みしていても開けない。前に進む力を、どうやって育むかを考えなければならない。</p> <p>したがって、東京オリンピックに向けた取組については、スポーツだけでは足踏み状態に陥ると考えられるので、観光や学校教育など様々な取組の成果を集約しなくてはならない。次期計画には、この視点を盛り込むべきと考える。</p>
委員	<p>オリンピック憲章に記載されているとおり、オリンピックは文化・芸術の総合的な祭典とされており、スポーツだけのイベントではない。</p>

委員	青森市は県営スケート場があるのに、スケートをしたことがある子どもたちが少ない。スキーは、お金や送り迎えなど親の負担も大きいですが、スケートはお金もかからないし、天気に関係なくできるスポーツである。
委員	スケートについては、一部の学校でのみ実施されている。子ども会等の学校以外で連れて行っているところもある。金沢小学校では、生徒 500 人のうち、約半分がスケート場に行ったことがあるようである。
委員	弘前市では、野球の一軍の試合を開催しようと取り組んでいる。また、八戸市では、市民を挙げてサッカーチームを応援している。青森市にはバスケットチームがあるが、盛り上がりには欠けている。何か、市民が一体となって盛り上げられることがあればいいのと思う。

(5) 子ども読書活動

発言者	発言内容
委員	家庭の事情によって、読書ができない子どももいるようである。朝の学習の時間を、これまで以上に読書の時間に充てていただきたい。
委員	現在の前の計画により、子どもの読書活動の成果は上がっていると考え。読書をするということの動機付けが図られたと考える。 社会を生きる力を付けるためには、文章を書くという力が必要である。今後は、読んだ後にどのように表現するかという、次のステップを考える必要がある。
委員	子どもの読書活動については、事務点検評価においてもかなりの高い達成度になっている。しかし、実際にどれくらい読書活動が子どもたちに定着しているかは検証が必要である。 読書は、一過性のものではなく日常的な習慣としていくことが必要であり、子どもたちの生活時間が変化していることをも考慮した計画にしなければならないと考える。
委員	子どもの読書活動については、10年ほど前に、子どもたちの心を育むことや、学力の向上のためには、読書活動が必要であると考え、計画を策定し、学校に浸透させてきた。これにより、学校の読書環境や取り組み方も変わってきており、ある程度の成果があったものと認識している。 この時には、学校と市民図書館をどう関わらせていくかということも、大きなテーマの一つであった。次期計画は3期目となるが、今度は地域をどう巻き込むかが大きなテーマの一つになるものと考えている。

委員	<p>小学校については、ある程度の定着が図られ、一定の成果があがったと考えているが、中学校はそこまでは至っていない。</p> <p>主な取組としては、心豊かな読書感想文推進事業を立ち上げ、読書活動推進の取っ掛かりとした。現在は、様々な読書感想文のコンクールがあり、各学校でも積極的に応募するようになっており、指導者の意識も変わってきている。</p>
委員	<p>4 か月検診時のブックスタートの手伝いをしているが、家庭によっては、「家は読書をしないので図書館利用者カードはいらない」と言われる時がある。</p> <p>そのような方にでも、1歳6か月検診の際に、「ブックスタートでいただいた本はどうされました。読んでいますか。」と聞くようにしており、中には、はっと思い出して読んでくれる方もいるようである。是非、読書と言う体験が、義務ではなく権利になるように活動を続けて行きたいと考えている。</p>

(6) その他

発言者	発言内容
委員	<p>言わずもがなではあるが、次期計画の策定に当たって、新たな内容を、安易に学校に導入することには注意が必要である。</p> <p>先般、事務点検会議の際に、内海先生が学校はブラック企業だと言っていたことが頭の中に残っている。学校が何をなすべきかを検討すると同時に、若しくは、それ以上に、地域や社会、各団体が、学校に対して何を行えるかということを念頭に置いた計画にしなければならないと考える。</p> <p>学校が社会に何をすべきかというよりも、社会が学校に何をすべきか。今、学校は本当に忙しい。豊かな心を育んだり、たくましい体を育てようとしても、学校は目いっぱい状況である。</p> <p>したがって、次期計画については、学校を支援する、若しくは、助ける立場の視点を忘れてはならないと考える。</p>